



天の定規

おやさま
教祖は、ある日飯降伊蔵に、

「伊蔵さん、山から木を一本切つて来て、真つ直ぐな柱を作つてみて下され。」

と、仰せになった。伊蔵は、早速、山から一本の木を切つて来て、真つ直ぐな柱を一本作つた。すると、教祖は、

「伊蔵さん、一度定規にあててみて下され。」

と、仰せられ、更に続いて、

「隙がありませんか。」

と、仰せられた。伊蔵が定規にあててみると、果たして隙がある。そこで、「少し隙がございます。」とお答えすると、教祖は、

「その通り、世界の人が皆、真つ直ぐやと思つている事でも、天の定規にあてた

ら、皆、狂いがありますのやで。」
と、お教え下された。

（稿本天理教教祖伝逸話篇三「天の定規」）

私たちは、「自分の考えは正しい。あの人は間違っている」と考えがちです。そのとき、今一度視点を広くして、自分の行いや考えを天の定規（教祖の教え）に当ててみてはいかがでしょうか。もし教祖の仰せられたように狂いがみつかれば、こちらから早く正していくことが大切です。今の小さな狂いは、先の大きな身上や事情のもつれにつながるからです。

そのためにも私たちは、教祖ひながたの道（めど）を目標に、常に謙虚な心で受け止めさせていただきたいものです。

本島大教会布教部（英）



天理教本島大教会